

事業名:災害時における難病患者の行動・支援マニュアルの作成及び啓発事業

所属	三重県防災危機管理局地震対策室	三重県健康福祉部健康福祉総務室	三重県健康福祉部健康づくり室	三重県健康福祉部薬務食品室
名前	田中貞朗	落合賢司	藤田典子	山口哲夫
視点1 事業実施中、実施後に話し合いが十分になされましたか。				
視点1-1 ニーズの反映	はい	いいえ	はい	？
視点1-2 ニーズの共有	はい	いいえ	はい	はい
特記事項		検討会等において当事者(患者)からの意見が少なかったためニーズ把握が難しかった。		ニーズの把握はできたが、事業結果に結びつける時間が十分ではなかった。事業内容が奥深く、又は広範にわたっていたため事業結果としてまとめるまでの時間が足りなかったのではないかと。ただ、話し合いについてはかなり深まったものと思う。
視点2 事業の目的や事業に関わる意義を確認できましたか。				
視点2-1 公共性と行政関与	－	いいえ	はい	いいえ
・不特定多数の利益	はい	？	はい	はい
・地域課題の解決、社会変革	はい	はい	はい	はい
視点2-2 協働の妥当性	はい	はい	はい	はい
特記事項	協働することで、非常に広い角度からの議論ができています。	現在、まだ1型糖尿病患者の「自分マニュアル」を検討しており、事業途中という段階なので、「広く不特定多数の利益」には繋がっていないが、今後も行政と市民との協働で取り組んでいく意義はあると考える。		今年の事業はIDDMに関する協議であったため、広く不特定多数の利益に直接繋がるものとはならなかった。しかし、今年の協議内容は、今後の対応しただけでは広く不特定多数の利益になるものと思う。
視点3 それぞれの役割が明確に整理されましたか。				
・役割分担	いいえ	？	はい	はい
・責任分担	いいえ	？	はい	はい
・情報共有	はい	はい	はい	はい
・問題発生時の対応	はい	？	はい	？
特記事項	災害時の対応なので、色々なところがうまく機能していないかもしれない、という前提であり、役割分担や責任分担はなじまないと思います。補完し合う関係だと思っています。			災害発生時の対応については、支援者と患者の間でギャップがあり、整理されていないように思う。
視点4 事業を計画的に進めていくことができましたか。				
・事業の目的	はい	？	はい	はい
・地域ビジョンと事業の方向性	はい	？	はい	？
・実施計画と収支計画	いいえ	？	？	？
・実際にかかる費用分担と予算管	？	？	？	？
・スケジュールの管理と進捗状況	いいえ	？	はい	？
・事業の進捗を客観的に判断する具体的な成果指標	？	？	はい	はい
・成果物の帰属	はい	？	はい	はい
・事業完了時期	いいえ	？	はい	？
・事業終了後の方向性の共有	はい	？	はい	？
特記事項	今回の事業は、スケジュール管理よりも内容をしっかり議論することが重要であり、これで良かったと思います。	当初予定していた「1型糖尿病患者支援・行動マニュアル」の作成については、現在作成途中となっている。		この項目については、今回の事業に直接当てはまらない項目のように感じた。？項目は回答することが困難であった。
視点5 参加・参画の体制づくりはうまく進みましたか。				
視点5-1 当事者性	はい	はい	はい	はい
視点5-2 対話	はい	はい	はい	はい
視点5-3 意思決定	はい	はい	はい	？
視点5-4				
・役割分担	はい	はい	はい	はい
・責任分担	はい	はい	はい	はい
・情報共有	はい	はい	はい	はい
・問題発生時の対応	？	？	はい	？
特記事項	時間の関係でMLを活用するのは仕方がないですが、顔を合わせて議論しないと伝わらないことがありますね。(それと読むのが大変)今回の取組は、いろんな立場の人が集まったので作業ですので、なるべくお互いを理解し合える場づくりが重要だと思います。		三重県での事業であったにもかかわらず、1型糖尿病患者の患者・家族で、三重県在住の方の参画が少なかった。今後のマニュアル等の普及啓発の上で、これらの方々の力が重要かと思っています。	支援班と患者班の間に微妙なギャップがあるように思う。双方が議論を深めていく必要があるように感じる。
視点6 事業実施段階で欠けていた視点や、今後必要とされる仕組み、制度等はないでしょうか。				
		予定していた「1型糖尿病患者支援・行動マニュアル」の作成が出来ていないことについては、当初の計画に無理があったように思う。また、NPOとの協働という観点では、関係NPO団体の代表的なメンバーとは積極的に議論が交わされたが、NPO団体に所属している1型糖尿病(IDDM)患者自身の意見等が少なかったように思われる。	次年度以降の目標になるかと思いますが、せっかく作ったマニュアルをいかに必要とされる方々へ正しく浸透させるか、そのために必要な人材等の育成も重要かと思っています。	この事業は継続して取り組む事業であり、現時点で成果等を評価することは難しかった。

事業名:災害時における難病患者の行動

所属 名前	三重県生活部NPO室 明石須美子	三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会 山本康史	特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク 岩永幸三	特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿 出丸朝代
<b>視点1 事業実施中、実施後に話し合い</b>				
視点1-1 ニーズの反映	はい	はい	?	はい
視点1-2 ニーズの共有	はい	いいえ	?	はい
特記事項	検討会での議論から、ニーズをあらためて認識し、	NPO側から、協働事業提案をさせて頂いたが、参画頂いた行政の部署の担当者のキャラクターにより、事業への参加のスタンスにかなり温度差があったように思う。行政の方の特性として仕方ない部分かも知れないが、事業全体について共に考える、という姿勢が感じられず、自分に関わる部分についてのみ考えたり発言したりする、という具合で、今回のように多角的な事業であればあるほど、目的の共有はともかく、想いの共有意識を持ちにくい事	まだ十分な成果がでていない。	ニーズの把握や事業の目的などについて話し合いは十分にできたと思うが、当事者の参加が低調だったことは残念だった。しかし、当事者の意見は、話し合い以外の方法で補足する努力はした。
<b>視点2 事業の目的や事業に関わる意欲</b>				
視点2-1 公共性と行政関与	?	はい	はい	いいえ
・不特定多数の利益	はい	はい	?	はい
・地域課題の解決、社会変革	はい	はい	?	はい
視点2-2 協働の妥当性	はい	はい	?	はい
特記事項	今回は、IDDM患者を対象に議論を進めてきたので、広く不特定多数の利益とまで言えないものの、この事業を契機に、災害要援護者への支援のあり方を広く発信していけるものと考えます。また、多様な当事者の集まりとなった検討会のコーディネータは、第三者的な立場で行う必要があり、協働でなければ実現できなかったと思います。	事業自体はまだ道半ばなので結論ではないが、今回の取組により、行政では取り組みにくい少数被災者に対する事業のすすめ方について、方向性を示せるのではないかと考えている。そして、すべての人がその人にしかわからない苦勞を持つ被災者になりえるし、今回の取組は啓発事業にも大きなウェイトがあるため、広く不特定多数の利益になると考えている。また、当事者だけの意見ではなく、医師や薬局など多角的な視点から課題に取り組みなければ実効的な成果を望めない事例であり、協働事業でなければ成果を出し得ないと考えている。	協働だからこそ、ここまでこれたと評価している。しかしながら、それが受益者である患者・家族の満足につながっているかどうかはまだわからない。	市民と行政との協働でなければできなかった。
<b>視点3 それぞれの役割が明確に整理さ</b>				
・役割分担	はい	いいえ	?	?
・責任分担	?	いいえ	?	?
・情報共有	はい	はい	?	?
・問題発生時の対応	?	いいえ	はい	?
特記事項	役割分担については、その都度、話し合いながら決めてきました。情報共有についてもメーリングリストを活用し常に情報交換できる環境を作りました。	役割分担という視点での話し合いは行っていないが、感覚として「NPO事業への行政・企業・識者参加」というイメージ。(つまり、「行政事業への市民参画」の逆)事業内容やすすめ方など、すべてをNPO側で考え、行政の方に対して「〇〇という事をやってほしい」とお願いする形だったと思う。情報共有については、メーリングリストを十分に活用し、共有できていたのではないかと思います。	行政は問題が発生したときの発言はあったが、通常ベースではよくわからない。	事業の進捗に従って決めていくこともあり、前もって全てを決めておくことはむづかしい。むしろ、柔軟に対応できていく姿勢は必要ではないかと思う。
<b>視点4 事業を計画的に進めていくことか</b>				
・事業の目的	はい	はい	はい	はい
・地域ビジョンと事業の方向性	はい	?	はい	はい
・実施計画と収支計画	?	はい	はい	?
・実際にかかる費用分担と予算管	?	はい	はい	?
・スケジュールの管理と進捗状況	いいえ	いいえ	いいえ	はい
・事業の進捗を客観的に判断する 具体的な成果指標	?	?	?	はい
・成果物の帰属	はい	?	?	?
・事業完了時期	いいえ	いいえ	はい	はい
・事業終了後の方向性の共有	はい	はい	?	はい
特記事項	今年度末の到達点を決めてはいたが、議論が事業終了間際に集中し、当初の計画どおり進めることができなかった。共通認識を持ちながらのスケジュール変更ではあったが、もう少し余裕を持って、計画を見直しつつ進めることが必要だと思った。	スケジュール管理については当初の見込みより時間がかかり、予定よりも遅れたため「いいえ」にした。事業完了時期については、事業提案時に「3年」と明記して提案を承認して頂いたにもかかわらず、2年目の予算についても非常にわかりにくいプロセスで取得できたこと、3年目についての保証が一切無いことから「いいえ」にしています。	契約終了間際に行政から多くの意見が出て大変だった。	マニュアルの作成は、当初計画よりややずれているが、遅れた理由に関してはマニュアルの内容を密度の濃いものにするためであり、プロジェクトチームの合意にもとづいている。
<b>視点5 参加・参画の体制づくりはうまくい</b>				
視点5-1 当事者性	はい	はい	はい	いいえ
視点5-2 対話	はい	はい	はい	はい
視点5-3 意思決定	はい	はい	いいえ	いいえ
視点5-4				
・役割分担	はい	いいえ	?	?
・責任分担	?	いいえ	?	?
・情報共有	はい	はい	?	いいえ
・問題発生時の対応	?	いいえ	?	いいえ
特記事項	事業計画そのものの議論でかなりの時間を要したため、責任分担や問題発生時の体制について言及する機会を持てなかった。	人によっては役職の枠を感じさせない幅広い行動をとっていたが、大変助かりましたが、全体としては視点1、3で書いたとおり、「NPO事業」に対して、自らの役職の範囲に限定して関わっていただけたかな?という感じがします。来年度は実践事業になりますので、自らの役職範囲にこだわらず、この事業の主体者として実践事業に行動していただけることを大いに期待しています。役割・責任分担、および問題発生時の体制については来年度実践事業をする上で明確にしておくべきだと考えています。	合意できない部分があり、一部を18年度へ先送りした。	話し合いの場で得られた合意を、改めて行政内部で決裁をとらなければならぬのは納得できない。行政は、当事者として関わっていないのではないかと。
<b>視点6 事業実施段階で欠けていた視点</b>				
	NPO等と関係室で事業を構築しても、予算措置要求の段階では、他の事業と同じテーブルで議論する仕組みになっているため、関係室が複数の場合は、予算措置を引き受けた部署に負担がかかることとなります。そのため、包括予算を持ち合うなどの仕組みが必要と考えます。	この取組はNPOからの協働事業提案という形で始まっているため、参加している行政担当者が「受け身」である点が通常の行政の事業とは全く違う。このような場合、事業の進行はNPO的なすすめ方(参加している人が責任と決定権を持ち、素早い事業展開を行おうとする)に沿ったような行政担当者の参加スタンスが必要とされるのではないかと。たとえば、行政の「年度」という区切りと判断に必要な時間のズレについては、行政側からNPO側にあわせて頂くのがスジではないかと考える。(行政の事業であれば、市民はできる限り行政のスタンスにあわせているのだから)(もちろん、一方的にあわせると言っているのではなく、まずはあわせて頂けるよう考慮して頂きたい、あわせられないところについてはほとんど話し合っただけで納得しあう形で進めたい、ということです)いろいろと書きいたし「受け身」だと表現はしているが、参加して頂いた行政の担当者の方々はじめ、医師や薬剤師、薬品メーカーの担当者など、皆さんがそれぞれの事情を情報共有しながら、積極的に参加して頂いたことには大変感謝している。H18年度の実践事業において、より幅広く当事者として動いて頂けることを期待している。	NPO側は責任者が出席するのにに対し、行政は担当者のみが発言され、土壇場になっているという言われて大変である。検討会やメーリングリストに行政責任者も参加して欲しい。	協働事業に行政が関わっていくためには、そのための行政内部の仕組みを確立すべきではないか。いまのままだと、担当職員が熱心なだけで組織として責任を持っているとはいえない。行政の担当部署の責任者が一度も顔を見せないのは、意思決定する場にはならない。これでは対等な話し合いの場といえない。行政の役割があると判断したときから、主体的に責任を負うべきである。提案を受けたから、という受身の姿勢は協働とはいえない。